

図書だより

6号
令和6年度
図書委員会

10月

「日本絵本賞」受賞絵本
館内展示中です。
ポップ交流サイトに
ふじぼんのポップ掲載中♪



絵本もポップも
見てね

日が沈むのが早くなり、ようやく朝晩は涼しく感じられる季節になりました。スポーツも、芸術も、食事も、読書も楽しみやすくなってきましたね。今回のテーマは「学問の秋」です。深め、広めることを、思う存分楽しみましょう。秋の深まりとともに、学びも深まりますように。

新しい本との出会いは、新しい人・新しい自分との出会いです。

実践の積み重ねで情報活用能力育成を ～学校図書館だからこそできること～



→資料を探しに来た生徒でござった返した昼休みの図書館。「活用できる資料」を自分で探せる力の育成を、学校図書館はサポートします。

↑ブックトラックの一角は「スキー教室事前学習資料」です。こちらも気になったときにどうぞ。

今年度の2学年総合的な学習のテーマは「ウェルビーイング」。1学期の「心と生き方～性～」に続き、2学期は「生きるために～食～」が始まりました。左の写真は2学年フロアのブックトラックコーナーです。食育に関する資料を、いつでも手に取れるようにしてあります。「調べるときには複数種類の資料を用意する」ことは、昨年度の情報活用の授業や国語科の授業でも学習済みです。



情報カードを基にはがき新聞を仕上げるのは年末になる予定。それまでにたくさん「知の森」で探索してください。

ようやく富士中に新聞ラックが！ 中高生新聞が明るい場所で読み放題♪

昨年度からお願いしていた新聞ラックが届きました。2階連絡黒板前、返却BOX横に設置してあります。中高生新聞2紙と、バックナンバーは、常時自由に閲覧可能です。

※埼玉新聞と毎日新聞は図書館前にあります。こちらも常時閲覧可能です。

※新聞を切り抜きたい、使いたい場合は司書教諭に声をかけてください。



埼玉県独自の県大会
中学生ビブリオバトル
—図書館と県民のつどい埼玉—

学校単位での応募です。10月4日が申込締切日です。まだ間に合います。

興味がある人は司書教諭まで。



開催要項

神無月 時雨月 初霜月

月名の由来：古くから十月は、日本の神々が出雲大社に集まると信じられていました。出雲では神在月。



募集 読書感想画コンクール

中学校・高等学校の部の指定図書を紹介しします。全て富士中にありますよ！

もちろん自分の好きな本(自由図書)の感想画でも OK。まずは司書教諭櫻井に相談してください。提出期限は期末テストまでです。今から本を選んでみてください。



「夜空にひらく」 いうみく／著 アリス館

暴力事件を起こした円人の補導委託先は、煙火店を営む深見静一の家だった。様々な人との出会いにより自分の居場所を見つけていく物語。

構成を考えたときに、花火の華やかさ、鮮やかさは容易に思いつく。だからこそ、そこに登場人物の個性・心情・成長を描き込めるかが鍵です。「補導委託」についても知ってほしい。



「リラの花咲くけものみち」 藤岡陽子／著 光文社

心に傷を負った少女は、獣医師を目指して北海道へ。動物たちの命と向き合うことで、自らの人生を変えてゆく——。理想と現実、命の、人生の選択。

北海道の雄大な自然と、様々な動物の生命の温かさ・確かさ。春夏秋冬の植物を描いても楽しい。本と資料を読み込んで、誠実に生命を描いてほしい作品です。



「死の森の犬たち」 アンソニー・マゴワ／作 岩波書店

チェルノブイリ原発事故後の森でたくましく生き抜いた子犬のゾーヤとその子孫、そして子犬の飼い主だった少女ナターシャの運命を追う物語。

子犬はもちろん、森の中の野生のオオカミやクマやヤマネコをドラマチックに描けます。まずはチェルノブイリ原発事故を学びましょう。福島原発事故後のことも考えながら描いてほしい。



「レッドリスト・プラネット 野生動物を守り、地球を救うために」 アンナ・クレイボーン／作 評論社
一度絶滅したものは二度と戻ってこない。野生動物の絶滅はなぜ起きるのかを人間の営みとからめて考察し、今私たちにできることを探る科学絵本。

絵本なので、作画の際に影響を受けやすいかもしれませんが。自分で資料に当たり、どうしても守りたいものを描いたり、複数の要素を構造的に配置したり、センスと意志を生かせる作品。



「深海ロボット、南極へ行く 極地探査に挑んだ工学者の700日」 後藤慎平／著 太朗次郎社
世界初の南極用水中探査機開発記にして、エンジニアから見た南極観測体験記。ロボット好きは必読。「南極料理人」でも「昭和基地」でもない南極。

画の中心は水中探査機か、エンジニアたちが、それとも深海の様子か。何を選んでも描き甲斐のある題材。極地の湖底の様子なんて、この本を読まなければ見る機会なんてなかったと思う。